

入 試 年度	2025 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2025 年 2 月 21 日
課程	博士後期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻現 代社会学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
Ⅰ 【解答例（採点時の観点として、それぞれの用語の基礎的な意味が書けていれば合格点。その用語や理論を提唱した人物名や正しい原文の綴りが書けていれば加点する）】					
（１）ラベリング理論（labeling theory）					
社会的逸脱は行為そのものではなく、社会がその行為に「逸脱」というラベルを貼ることと生じるとする、ハワード・ベッカーらが提唱した理論。					
（２）メリトクラシー（meritocracy）					
能力や成果に基づいて社会的地位や報酬が決まる仕組み。教育社会学では「学歴社会」批判と関連して議論される。					
（３）第一のモダニティと第二のモダニティ（the first and the second modernity）					
ウルリッヒ・ベックらによる概念。第一は産業化・合理化中心の近代、第二はリスク社会・個人化が進む後期近代を指す。					
（４）自己の再帰的プロジェクト（the reflective projects of Self）					
アンソニー・ギデンズの理論。近代社会では個人が自らのアイデンティティを反省的に構築し続けることが求められる。					
（５）エートス（ethos）					
マックス・ウェーバーが用いた概念。社会や集団に共有される価値観や行動様式。ウェーバーは、プロテスタンティズムのエートスが資本主義精神を形成したと論じた。					
（６）文化的再生産（cultural reproduction）					
ピエール・ブルデューの理論。教育制度などを通じて支配階級の文化が再生産され、社会的不平等が維持される。					
〔Ⅱ〕					
（１）【解答例（３つ以上挙げていることが合格点には必要。他にも、社会学の質的調査					

法として使われている、アクションリサーチ、エスノグラフィー、オンラインエスノグラフィー、ヴィジュアルエスノグラフィー、などを挙げてもよい)】 インタビュー調査法（構造化・半構造化・非構造化、個別・グループ、対面・オンラインなど） 参与観察法 観察法 フィールドワーク ライフヒストリー法 ドキュメント法（日記法、雑誌記事分析、新聞記事分析、SNS 投稿分析など） フォトボイス法 など （２）【解答例（「規範の内面化」という内容の記述が必要。個人のセクシュアリティの社会的構築の例は、もちろんさまざまな異なる具体例でもよいが、家庭、メディア、学校などの影響に言及することが必要。）】 セクシュアリティは生物学的に決まるものではなく、人が生まれてから取り囲まれた社会環境の強い影響を受けて内面化していく、社会的・文化的規範や言説によって形成される。例えば、家族の掟や、学校、友人間の暗黙のルールにある、異性愛中心主義やジェンダー役割が、個人の性的自己認識や行動を規定する。 日常生活では、人はメディア表象、家庭での教えや、学校の教師ら年長者からの教育、隠れたプログラムとしての教育、何を健康/病気とみなすかの医療的見方、などさまざまなルートを通じて「何が正常なセクシュアリティか」の情報に触れ、自分自身の考え方や欲望の形、行動の仕方を作っていく。これが個人のセクシュアリティの社会的構築である。たとえば性別は男女の二つにはっきりと分かれ、それぞれに相応しい容姿や服装や役割や振る舞いがあるという規範を内面化する社会状況では、出生時に男性とされた人が、女性の服装を着てみたいという願望を心中に持ったとしても、その願望を直ちに内的に否定し、抑圧して過ごすことが多々起きる。本人すら、その願望が内的に存在することを認めるのに時間がかかる。
合否判定の方法及び基準
入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。 合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。